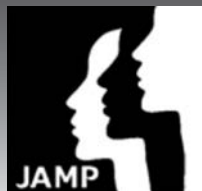


2020 年 12 月 1 日発行

一般社団法人 日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics



Newsletter No. 32

Maxillofacial Prosthetics

発行人 米原啓之

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

第 38 回総会・学術大会案内



大会長 山森 徹雄
(奥羽大学歯学部 教授)

会 期：2021 年 6 月 3 日（木）～ 5 日（土）
会 場：郡山市民交流プラザ（ビッグアイ 7 階）
（福島県郡山市駅前 2-11-1）
主 幹：奥羽大学歯学部歯科補綴学講座

第 38 回総会・学術大会を上記の要領で開催いたします。郡山での開催は 2013 年以来 8 年ぶりとなります。是非多くの方にご参加いただければと思います。本学会の学術大会は、発表もさることながらディスカッションの充実が特徴ですので、対面での通常開催を目指しております。しかし、状況によっては Web 開催などの対応が求められるかもしれません。その際はご理解くださいますようお願いいたします。

本大会の特別講演は、九州歯科大学の鱒見進一先生にご担当いただきます。本学会を牽引してこられた鱒見先生の英知と経験がちりばめられたご講演になることと確信しています。またシンポジウムを 2 本予定しております。その一つは「顎顔面補綴の最新エビデンス—診療ガイドライン 2019 年版より—」です。座長の小野高裕先生が、診療ガイドライン委員会でまとめられた最新の治療指針をご紹介します。もう一つは「病院歯科における顎顔面補綴治療」と題するシンポジウムです。超高齢社会となって久しいわが国においては、頭頸部がんの治療成績の向上と相まって顎顔面補綴治療を求める高齢者の増加が見込まれ



会場の郡山市民交流プラザ

ます。このような患者は遠隔地の医療機関を受診するのが困難なことから、居住地域での医療提供を希望する傾向がみられます。よって地域の中核病院の歯科がその拠点として重要な役割を担うことになります。本シンポジウムでは、病院歯科における顎顔面補綴治療の現状と問題点をピックアップし、スムーズに治療を進めるためのポイントや本学会として取り組むべき事項を明確にできればと考えています。

本学会第37回大会の中止や他学会のWeb開催などにより学会での討論がなく、うずうずしておられる先生方が多いのではないのでしょうか。2021年6月には、是非、郡山にご参集いただき、ご発表・ご討論を通して顎顔面補綴学とその臨床のさらなる発展にお力添えくださいますようお願いいたします。

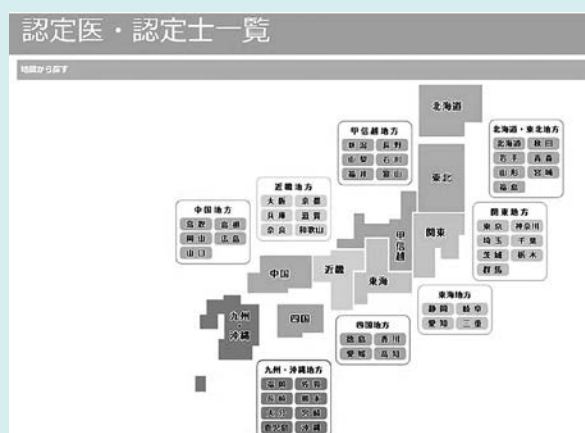
認定医・認定士のみなさんへ 認定医・認定士ホームページの更新に伴う 掲載情報等確認のお願い

広報委員会では、現在学会ホームページの更新、刷新作業を行っております。

学会認定医・認定士一覧を掲載しているページでは、患者さんや学会員以外の医療従事者の目線で身近な認定医・認定士を検索しやすくするために、掲載方法を変更いたしました。

旧ホームページでは氏名、認定医番号、地方名、都道府県名、所属先名称のみが掲載されておりましたが、都道府県と施設の名称のみでは施設の場所がわからないため、実際に受診したい場合には不便な状態でした。新ホームページでは、資格(認定医・認定歯科技工士・認定歯科衛生士・終身認定医・終身認定歯科技工士)、氏名、所属先名称、所属先連絡先(郵便番号、住所)、TELの欄を設けております。必須掲載項目は資格、氏名、所属先都道府県で、その他の項目の掲載は任意とし、希望項目を選択することができます。また、ご希望があれば所属先名称から所属先のHP等へリンクさせることも可能にしました。

各自、掲載項目を学会ホームページからご確認ください。現在、大学等の所属の方は所属先名称に講座名等が記載されていますが、患者さん等が問い合わせをしやすい病院の診療科等への修正をご検討ください。修正項目がある方、必須掲載項目以外に希望しない掲載項目がある方、電話番号を掲載したい方、所属先のHPをリンクさせた



新しい認定医・認定士一覧のページ

い方、のいずれかに該当する場合はホームページの一番下に設定してある「掲載事項入力フォーム」から変更・修正を申請してください。また、掲載自体を辞退されたい方は上記の「掲載事項入力フォーム」の一番下の「通信欄」にその旨をご記入頂き申請をしてください。今後新たに認定医・認定士の資格を取得された場合、掲載事項に変更が生じた際も同様にフォームを使用して申請をしてください。なお、順番に対応をいたしますが、反映までに時間を要する場合がありますのでご了承ください。

また、先生方の周りの認定医・認定士の方にも上記をお声がけ頂けると幸いです。今後も利用者目線でのホームページに作成を行っていく予定です。どうぞ、ご協力のほどお願いいたします。
(広報委員会委員長 中島純子)

非会員による 学術大会発表、論文発表に関する細則

2020年2月の理事会で非会員の学会発表と論文発表(共同演者のみ)について5,000円の登録費を支払えば、可能であるという内容が、明文化されていないというご指摘がありました。会則検討委員会で明文化をするよう理事会より指示があり検討を行い、細則を作成いたしました。

詳細は学会ホームページ→「学会概要」→「諸規則」に細則および申請書が掲載されていますのでご確認ください。非会員でも興味をもってご参加いただく機会をもつことで、会員増に貢献できることを祈っております。

(会則検討委員会委員長 関谷秀樹)

代議員新選挙制度ようやくスタート！

代議員選出にあたり、「55～60名のマークシートチェック」に対して、「結構大変」というご意見をいただいております。鮎見前理事長より「マークする数を減らす限界について数学的に調査」「各分野・職種より代議員を選出」という宿題を、会則検討委員長として拝受しておりました。これに関しては、会則に反映する可能性があるのではお受けしましたが、調査・検討するに従い「会則を変えずにできるかもしれない」という流れになり、「会則検討委員会の手を離れる！」と小躍りしながら歓喜しましたが、前理事会で選挙管理委員長を拝命してしまい、自分の手に戻ってまいりました。そうすると、この案件は可愛らしくなってくるわけです。

統計・選挙の専門家に何うに、定数に対して定数と同等に記載するのが確実であるが、そこから減らしていく場合、定数を割ってしまう可能性が生じることです。仮に1名に投票することとした場合、全員がご自分に投票した場合決まりません。2名以上であれば60名～90名の代議員がきまる可能性が出てきますが、全投票者が自分自身と特定の1名に投票した場合は、順列がつかず決まりません。このように、偏りが生じる確率は記名数が増すほど小さくなります。そこで、理事20名+新しく理事になってほしい新進気鋭の先生方10名、という考え方にに基づき、従来の半数の30名を選択してもらうこととなりました。

また、1. 病院等の補綴系、2. 病院等の外科系、3. 総合歯科・診断系、4. 技術系の区分に分けて選挙を実施し、1～3は各1名以上、4は歯科技工士・歯科衛生士・言語聴覚士より各々1名以上選出することとしました。一ツ橋印刷の皆様のご尽力を賜り、スムーズな開票作業と集計を行うことができました。紙面を借りまして御礼申し上げます。問題点は、4. の分野から各職種最低1名、が「4から1名」と理解され、無効票が生じたことです。この点は、次の選挙の際に修正すべき点と思われます。会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

(会則検討委員会委員長 関谷秀樹)

関連学会報告

International Anaplastology Association (IAA) Webinar を受講して

今年度のConferenceは2020年6月にペルーのリマにて開催予定でしたが、COVID-19の影響を受け、開催が中止となりました。しかしながら、IAAは会員の相互の意見交換や教育の場を設ける目的で、学術大会にかわり、有料のWebinarやOnline Training Courses (OTCs) の開催を会員、非会員向けに複数回行いました。内容は内部彩色やColor Matching、ワックスアップのテクニックや植毛などの、エピテーゼ製作の基本的なものや顎骨再建におけるシミュレーションやスキャンに至るまで、多岐にわたっていました。

筆者は、「Wax Sculpture Finishing Techniques: Thin Margins and Life-like Texture」、および「Orbital & Upper Facial Prostheses: Every Detail Matters」を受講しましたが、細かいテクニックを(画面上ですが)、間近にみることができ、大変貴重なWebinarでした。OTCsの方は実際にConference時のワークショップを想定しているような内容で、日本にいながら、IAAのワークショップに参加できるのは大変有意義であると思われます。来年度のConferenceについては未定ですが、WebinarやOnline Training Courses (OTCs) が継続して開催されることを望みたいと思います。

詳細は<https://www.anaplastology.org/> をご確認ください。

また、11月1～3日に予定されていた、American Academy of Maxillofacial Prosthetics (AAMP) のAnnual Meetingは中止となりましたが、Webinarが開催される予定です。海外に向いてまで、と普段躊躇されていた方も、この機会に参加してみたいはいかがでしょうか？詳細は、

<https://www.aampconference.com/program/webinar-presenters/> を参照してください。

(広報委員 吉岡 文)



Newsletter No. 32

Maxillofacial Prosthetics

関連学会のご案内

●第 39 回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会
会 期：2021 年 1 月 28 日(木)～2 月 21 日(日)
大会長：栗田 浩（信州大学歯科口腔外科学教室）
WEB 開催（オンデマンドおよび ライブ配信）

【運営事務局】プラントゥ・ジャパン
<http://www.assiste-j.net/js0039/index.html>

●第 45 回日本口蓋裂学会総会・学術集会
会 期：2021 年 5 月 20 日（木）～21 日（金）
大会長：上田晃一（大阪医科大学形成外科）
会 場：宝塚ホテル

【運営事務局】有限会社トータルマップ内
<http://jcpa45.umin.jp/>

書籍紹介



『リーダーシップの旅
～見えないものを見る～』
野田智義・金井壽宏 著
(光文社新書) 780 円

コロナ禍において、多くの医療機関が危機的な状況を迎えています。ある病院は感染症指定医療機関として患者を多数受け入れ、またある

病院では院内クラスターが発生してしまい、またさらに幾つかのクリニックでは休業を余儀なくされてしまう…。このように組織が危機的な状況に陥ってしまった際、それを乗り越えるために必要とされるのが「リーダーシップ」です。今回の書籍紹介ではコロナ禍を、診療科やクリニックのチーム一丸となって乗り越えるためのヒントとなる 1 冊をご紹介します。

この本の著者のお一人は、組織行動学・リーダーシップ研究で有名な金井壽宏先生（神戸大学 MBA）です。先生は世間で一般的に考えられている「リーダーシップ」観には、大きな誤解があるとおっしゃられます。リーダーシップは、ある特定人に生来備わっているものではない。また本で読んで習得するものでも、誰から教わるものでもない。私たち一人ひとりが、自分の生き方の中に発見するものであり、誰しもが「結果としてリーダーとなる」可能性を持っているのだと。

ただ、リーダーは孤独であるとおっしゃられます。なぜならこの本のタイトルにもある通り、リーダーは「見えないものを見る」必要があるからです。フォロワーには見えていない「それ」を、人々の価値観に訴え、共感を得て、共に歩むよう働きかける。そのためにはまず「リード・ザ・セルフ」。自分自身が「内なる声」を聴き、自分自身を突き動かす原動力として、見えないものを見たいと思う強い気持ちがあるかどうか。これがリーダーシップを発揮するプロセスを理解する上で最も重要であると説かれます。

残念ながらこの手の本には、怪しげな自己啓発本も多く混じってしまいます。しかしこの本は違い、我が国の第一線の研究者による対談形式で、読みごたえがあります。コロナ禍を生き抜くヒントが詰まっています。ぜひ一読を！

（広報委員 猪原 健）

皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会 広報委員会
委員長 中島純子
委 員 猪原 健、大木明子、関谷秀樹、
堀 一浩、宮本哲郎、吉岡 文
E-mail : max-service@onebridge.co.jp